

基本的欲求の充足に関する学生の学びの質的分析 — 看護学科1回生の記述分析を通して —

The Qualitative Analysis of Students Studies on Fundamental Human Needs
— What are described by students at Nursing School of Junior College —

金子 道子
Michiko KANEKO

【要 旨】

ヘンダーソン看護論の理論枠で学んだ、ALS患者の基本的欲求充足の情報収集と情報解釈について看護学科1年生の自由記載された学修事項をカテゴリー・概念化法で質的分析した。その結果、情報収集・解釈の仕方、常在条件、ALS疾患、自尊感情、夫の情緒的・道具的支援、看護倫理や記録について学んだ主要概要を以って、思考過程を示すことで事象を正確に説明し、事例の本質から看護援助の抽象化ができる能力が6割の学生に育ちつつあることが証明された。

また62名の学びのテーマとその説明を統合した結果、学びの文脈は「夫の道具的・情緒的支援をうけて、自尊感情を維持しつつ、日常の日課を過ごすALS患者の理解は、ALS疾患の正確な理解に基づき、その上で基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報収集を情報解釈によって行う。そして患者のQOLを尊重した看護援助をする」と総括できた。

【キーワード】

基本的欲求の充足 常時存在する条件 病理的状态 情報収集 情報解釈

I 緒言

今回、松本短期大学看護学科第1回生1年生の前期授業として、看護理論の1つ、ヘンダーソン看護論を教授した。

ヘンダーソン看護論の授業は、筆者が自己点検評価を行ったのであるが、看護学科専任教員による初めての同僚評価の対象としても取り上げられた。

自己点検評価と同僚評価の直接の評価対象に、ヘンダーソン看護論の期末試験を用いた。

期末試験に対して、自己点検評価と同僚評価を研究的に取り組み、本研究と平行して、ヘンダーソン看護論の学生の学修成果を明確にした。

期末試験の問題の1つに、「基本的欲求の充足」に関する問題を設けた。さらにこの問題は、筆者が、本研究と平行して自己点検評価した。

単位認定者である金子は、「基本的欲求の充足」に関する問題を5設問で構成した。

4つの設問を解答した後に、第5番目の設問で基本的欲求の充足の判断について、学生自身が学んだことのベスト1・2・3をまとめ、記述させる方法をとった。

さらに、学んだことに対して、テーマをつけて説明することを課した。

この問題は、全試験問題の一部として採点し、さらに学修成果がどうであったか、自己点検も行い、研究としてまとめた。

その際、学んだことベスト1・2・3のタイトルと説明は、学生の学びの質を具体的に表しているデータであることに着目した。

そこで、学びの成果の自己点検評価と並行させて、基本的欲求の充足に関する学生の学びの質的分析を行うことを目的に研究に取り組むこととした。

Ⅱ 研究目的

「基本的欲求の充足」に関する学生の学びベスト1・2・3に付せられた「学びのテーマと説明」を分析考察することにより、学びの質の実態を明らかにする。

Ⅲ 基本的欲求に関する試験問題

- 1) 資料1「基本的欲求の充足」試験問題参照
- 2) 今回の研究対象となったデータは、問題5、3)に挙げた学んだことBest3の箇所である。
- 3) 当試験は、前期看護理論授業終了後、授業内容を復習し、レポート形式で提出する方法で行われた。
- 4) 復習の際、授業で使用した教科書、参考書、教材プリント、各自のノートの他、他の参考文献の活用も奨励した。
- 5) 解答のスペースは、別紙の指定されたスペースとし、説明は書きたい内容を精選し、まとめて書くように指導した。
- 6) 基本的欲求に関する試験問題の出題の意図（資料1参照）

Ⅳ 研究方法

- 1 研究データ；「筋萎縮性側索硬化症を病むAさんの基本的欲求に影響を及ぼす、Aさんの常時存在する条件に関する情報と情報解釈」から学んだことベスト1・2・3を抽出し、学んだことにテーマをつけ、説明した62名の学生の記述をデータとする。
(注1)「筋萎縮性側索硬化症を病むAさんの基本的欲求に影響を及ぼす、Aさんの常時存在する条件に関する情報と情報解釈」については、使用した教科書、プリント教材で講義している。
また、情報及び情報解釈したものの所在も示し、復習への手がかりとしている。
(注2)学んだことベスト1・2・3を書くまでに、試験問題「基本的欲求の充足」についての説明問題1・2・3・4を解答することで、学んだことベスト1・2・3の精選、まとめが容易になるよう設問を配慮している。

2 データ分析

- 1) 学んだことベスト1・2・3のテーマ及び説明の採点と得点分析
 - (1) 出題の意図・評定基準に基づく採点
 - (2) 講義内容との対照に基づく得点結果の分析
- 2) 学んだことベスト1のテーマと説明記述内容の分析
 - (1) テーマのカテゴリー分類
 - (2) テーマに関する説明のABC三段階評価の基準作成
 - (3) テーマに関する説明のABC三段階評価

3) 学んだことベスト1を基軸にしたベスト2、ベスト3のテーマ分析

学んだことベスト1のテーマをカテゴライズし、系統化して、ベスト1のテーマを提示した学生が、ベスト2、ベスト3にどのようなテーマを挙げたかをテーマ別に、その一覧表を作成する。

V 倫理上の配慮

1. 本学看護学科1年次学生の看護理論上の期末試験結果を研究対象とすることから、学生個人の成績評価と単位認定に無関係であること、また個人が特定できないことを、作成した「授業評価及び期末テスト結果活用依頼書」、「承諾書」で説明し、看護学科専任教員で審議了承のうえ、同意・承諾を学生62名全員から得ている。なお、経過途中における同意・承諾の取消者はいない。
2. データベース、分析結果が「ヘンダーソン看護論の期末試験における学生の学修成果」の論文と重複している。但し、分析考察者は、筆者単独で行っている。

VI 結果及び考察

1 基本的欲求の充足に関する学びベスト1・2・3記述内容の評価

1) 学んだことベスト1・2・3を記述させる教育的意図

(1) 講義の内容理解を反映させた試験問題

学生は、筋萎縮性硬化症（以下「ALS」と略す。）患者Aさんの基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件に関する情報収集と情報解釈について講義を受けている。

このことは、ヘンダーソン看護論の実践応用する時に最も重視されることで、看護過程の初段階としての情報収集、情報解釈の教授内容であった。

また、学生は、看護専門職者として、患者の基本的欲求に全責任をもって援助にあたることを教えられている。

このことは、ヘンダーソン看護論の看護目的論として教授し、どのような疾患を持つ患者であっても、援助の目的は基本的欲求の充足にあることを常に意識づけしてきた。

以上から、ALSのAさんの基本的欲求の充足に、全責任をもって援助にあたらないといけない。本学の看護学生は、前期の授業終了時には、次のことを理解していなければならない。

『ALSのAさんの常時存在する条件（年齢など個人情報、気質、情動状態、社会的なないし文化的状態、身体的ならびに知的能力）の情報収集を行い、収集した情報を解釈して、Aさんの14の基本的欲求の充足を判断していくことこそ、看護実践である』と。

期末試験時には、上記のことが十分に理解できているのではないか、あるいは理解してほしい、理解が不十分であるならば、この際理解をすること、という教育側の期待を込めて問題作成した。

(2) 設問大項目「基本的欲求の充足についての説明」の5設問中項目

設問の大項目「基本的欲求の充足について説明しなさい。」に対し、次の5中項目を設定した。

設問1；基本的欲求に影響を与える事項を2つ挙げ、各事項の具体的要素を書きなさい。

（2つとは常在条件、病理的状态をいう。）

設問2；基本的欲求の充足に関して、専門的に判断（診断）するのは誰ですか。（看護師。ただし学生は“看護師になる自分自身”と答えている。）

設問3；基本的欲求の充足に関して判断するために情報が必要です。何に関する情報が必要か、3項目挙げなさい。（基本的欲求、常在条件、病理的状态）

設問4；上記、1、2、3に関して、ヘンダーソンは「看護の基本となるもの」の中で、根拠となる考え方を表で示しています。その表は、本の何ページにある表か、ページと表名で答えなさい。（P 23、「一般には看護師によって充たされ、また常時ならびに時に存在する条件によって変容する、すべての患者がもっている欲求」）

設問5；「看護論と看護過程の展開（金子道子編著、学生教科書）」におけるP 44の「筋萎縮性側索硬化症患者の看護」のAさんの事例（資料3「試験問題で取り上げた事例の概要」参照）について答えてください。

- 1) Aさんの基本的欲求の充足に関して判断するために、必要な情報を収集しています。それらの情報は、どこにまとめられていますか。まとめた表名、全部を答えてください。
- 2) 基本的欲求の充足の判断に、情報を活用するにあたり、必ずしておくことがあります。授業で教えたことをヒントに答えてください。
- 3) Aさんの常時存在する条件に関する情報は、P 45、表I-1「基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件に関する情報」にまとめられています。さらに、それらの情報解釈は、プリント資料で講義しました。表と資料による解釈から、あなたが学んだこと Best 1、Best 2、Best 3 を書いてください。

・ Best 1

学んだことのタイトル；

学んだことの内容；

・ Best 3

学んだことのタイトル；

学んだことの内容；

・ Best 2

学んだことのタイトル；

学んだことの内容；

(3) 学んだことベスト1・2・3のテーマ及び説明内容への焦点化

今回の研究対象は、設問5の3)における学んだこと Best 1、2、3の「学んだことのタイトル」と「学んだことの内容」に焦点化した。

学んだこと Best 1、2、3のタイトルとその内容に焦点化した意図は、次のことであった。

- ① 設問1～4は、ヘンダーソン看護論における、基本的欲求の充足の判断に関する基礎理論である。個別の患者に実践応用するためには、基礎理論の理解が必要で、そのための設問を作成した。
- ② 基本的欲求の充足の判断は、個別の患者に行うもので、看護理論上の講義では、ALSのAさんの基本的欲求を取り上げた。そのことから設問5を作成した。
- ③ 設問5では、先ずAさんの基本的欲求の充足の判断に必要な情報収集と、収集した情報の解釈に関する理解を問うた。
- ④ 次に、基本的欲求に影響を及ぼす2要件のうち、常時存在する条件に照準を合わせた。ALSの病理的状态についても学生の理解を促進すべく講義をしたが、1年生前期ではまだ難解なところがあったので、常在条件に照準を合わせたのである。

- ⑤ 常在条件とは何をさすのか、常在条件の情報収集、収集した情報をどのように解釈するのか、ALSのAさんの事例で、具体的に教えた。その際、Aさんの具体例から、普遍的な一般論を教授し、他の事例でも応用できることを教授原則論とした。
- ⑥ 設問5の3)は、ALSのAさんの基本的欲求の充足に関する判断に備えるための総括である。従って、設問1～4までと設問5の1)、2)が理解され、示された表や教材プリントの読みとりができれば、学んだことにタイトルをつけて記述できるようになっている。講義で行った一連の連続した学修過程を設問上で再現した設問である。
- ⑦ Best 1、Best 2、Best 3の順位性は、学生が付けるためのものである。
学生にとって学びの重さあるいは価値をみることができる。

2) 学んだことベスト1・2・3記述内容の採点基準と採点結果

62名の学生が実際に記述した学んだこと Best 1・2・3の内容を採点した。その採点基準と採点結果は次のとおりである。但し、この採点基準及び結果は、並行して研究している「ヘンダーソン看護論の期末試験における学生の学修成果」と同じ基準と結果を用いている。また、基準設定と結果分析は、金子が単独で行い、説明した。さらに両研究の共通する事項であることを、付け加えておく。

<採点基準>

- ① 学んだこと Best 1、Best 2、Best 3に与えたテーマと、テーマについて学んだことが、表現されているか否かで採点した。その一致がみられている記述には6点を与えた。
- ② テーマについて述べられている内容が講義等の復習で深められている記述には、Best 1、Best 2、Best 3各1点を加点した。
- ③ 記述されている内容が、設問Ⅳ-5の1～3と関連させて述べられている場合には、総合得点として1点加算した。
- ④ 上記①～③全部が充たされていれば、満点の10点である。
- ⑤ 学びのテーマとして取り上げたもので、教育側からみた重要度は採点の基準とはせず、学生自身の学びとしてのテーマ化とそのテーマに対する内容で採点した。

<採点結果>

- ① 上記採点基準で10点満点を得点した者は、24名(39%)であった。
- ② 6点から9点までの得点者は32名で、10点得点者と合わせると58名(94%)であった。
- ③ 10点得点者は、上記の採点基準を満たし、事例の常在条件に関する情報収集・情報整理・情報解釈・情報記録等から学んだことをテーマ化し、それについて学んだことを具体的に記述できていた。
- ④ 9点から6点までの得点者は、上記の採点基準のいずれかに達せられず減点された。また事例の常在条件の情報収集・情報整理・情報解釈・情報記録等には触れているものの、テーマと説明の内容が一致せず、学んだことを十分に説明し切れておらず、減点した。
- ⑤ 5点であった3名については、常在条件の情報について設問しているにも拘わらず、Aさんの罹患しているALSの病理的状态についての学びだけで、常在条件にふれていないことから、合格点の6割を切る5点とした。関心はALSに集中していたと考えられるが、問われていることに対応していないことが欠点に繋がった。
- ⑥ 1点の得点者1名は、学んだこと Best 1、Best 2、Best 3は記述されていた。しかし、学んだことのタイトル、それに対する説明に関連性がなく、説明も講義等の内容を殆ど反

映していなかった。まず、問われていることの理解ができず、「説明」が説明になっていないことが伺えた。講義の中で理解が一定レベルに達していないと、復習ができず、従って設問にも答えられない状況であったと考えられる。

3) 採点結果の集約

- ① 全体の94%、58名が教育、出題の意図に応えられていた。このことは、授業の到達度も達成されたと評価できる。
- ② 58名のうち24名（全体の39%）は、10点満点を得点した。このことは、授業で教授したことに習熟することができたと評価できる。
- ③ 5点であった3名は、合格点6点を下回る結果となった。設問5が常在条件の情報収集・情報解釈であっただけに、そのことが理解できていなかった結果の表れとみることができる。
- ④ 得点1点の1名については、授業の内容が理解できていないこと、期末試験には何をどう復習したらよいかかわかっていないこと、従って試験で何を問われているかが理解されていないことを解答が示していた。それは、得点結果に示したとおりである。特別の補充教育が必要となろう。

4) 学期終了時における学生の習熟度に関する考察

今回は、前期授業終了後、1ヶ月後に提出させたレポート形式の筆記試験であった。ヘンダーソン看護論の学修は、知識や理論を単に言葉のみで覚えるに留まらず、知識や理論を言語で理解し、言語・文章の意味を理解応用できる能力育成のレベルを目標とした。試験問題を中心に講義内容を総復習して講義終了時よりもより習熟度を高めるために採った試験方法であった。

<学生到達学修課題>

学生の得点状況からみて、8割から10割の学生が到達したとみることができる学修課題に次の6点事項が挙げられる。

- ① 「基本的欲求に影響を与える常在条件、病理的状态とその具体的要素」
- ② 「基本的欲求の充足に関する専門的診断者」
- ③ 「基本的欲求の充足判断に必要な3つの情報群」
- ④ 「基本的欲求の充足に関する判断の根拠となる理論の指摘」
- ⑤ 「Aさんの看護診断のために必要な情報収集」（看護診断方法の事例応用）

以上の事項は、講義でも重点的に教授し、習熟度も高めることを狙った事項である。

15回の講義時に行った学生の理解度の調査や授業時の反応及び感想から、学生の意見もふまえ、復習に時間をかければ期待する習熟度に達すると判断した。10年来、看護系の短期大学或いは大学の1年次学生に、同じ教材で、難しいと言われている看護論と、その実践応用を教育してきた筆者は、松本短期大学看護学科第1回生の1年生を対象に、看護論の教育を「学生全員が理解できる」ことをモットーにして教育工夫を重ねてきたが、学生の学修意欲、学修方法の体得状況、理解力、その他の教科の試験状況等から、1ヶ月の復習の期間を与えることを試みた。その結果、上記の事項については8割から10割の学生が習熟できたとみなすことができる。学生が、教育側が期待する習熟度に達するためには、試験問題を中心に、教科

書・ノート・教材資料などから、定められたスペースに解答を説明するための復習が必要であったと考えられる。「復習の結果、学んだことベスト1・2・3・が集約でき説明可能になり、教育側の重点的事項とも一致させることもできた。」と、学生を観ることができるからである。

以上は、看護学科1年生の看護理論の理解力、学修課題、学修意欲、学修方法の体得状況、教材等について、重要な示唆を得た。

また、松本短期大学看護学科第1回生1年生の学修能力レベルを具体的に示す指標としての「習熟度」と受け止めなければならない。

2 学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明

1) データの集積及び系統化方法

- (1) 62名学生が記述した、学んだこと Best 1 のテーマと、そのテーマに関する学んだ内容の説明を抽出した。
- (2) テーマは、類似するテーマをカテゴライズし、カテゴリーの中心概念を見い出し、カテゴリーにその中心概念を命名した。
- (3) 命名した同一カテゴリーの中で、サブカテゴリーを見い出し、中心概念をもってサブカテゴリーについても命名した。
- (4) カテゴリー名、同一カテゴリーに内包されるサブカテゴリー名を位置づけることで、学んだこと Best 1 テーマの系統化を行った。
- (5) 何れかのカテゴリー、サブカテゴリーに位置づけられた各学生のテーマに対し、同一学生のテーマに関する説明を学生の記述のまま加えた。

2) カテゴリー、サブカテゴリーの定立

上記の1)の方法で学んだこと Best 1 テーマの分類を行った結果、次の3カテゴリーと各カテゴリーに内包されるサブカテゴリーを定立させることができた。

カテゴリー・サブカテゴリーの定立と命名

カテゴリーNo	カテゴリー名	内包されるサブカテゴリー名
カテゴリー 1	情報カテゴリー	情報収集、情報解釈、情報解釈の仕方
カテゴリー 2	常在条件カテゴリー	身体的、知的能力、特記事項、個人情報、気質・情動状態、社会的・文化的状態
カテゴリー 3	A L S 疾患・自尊心・夫の支援・倫理と記録 カテゴリー	A L S 疾患 自尊心 夫の支援 倫理と記録

カテゴリー、サブカテゴリー命名から言えることは、学生の学びのテーマが、教育内容とほぼ一致しており、かつ教育上の重要度も高いテーマであるということである。また、教育範囲全体を網羅していることが証明された。

3) 学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明

(1) 「学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明」の作表

定立したカテゴリー、サブカテゴリーに、データ集積・系統化法の (5) の操作をした結果、3カテゴリー別の学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明のデータが表在化することができた。それが、表1、表2、表3である。

表1 「学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明 (情報カテゴリー)」

表2 「学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明 (常在条件カテゴリー)」

表3 「学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明 (ALS・自尊感情・支援・倫理と記録カテゴリー)」

表1 学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明 (情報カテゴリー)

情報サブカテゴリー	学んだこと・テーマ	テーマに関する説明
情報収集	情報の収集	あらゆる所から情報を集め表を作る。
	情報の収集	様々な種類に情報を振り分けるかどうか判断したところを書く。情報を挙げるか迷った時は挙げる。本人以外家族からも集める。情報評価しない。
	情報の収集	どんな小さな事でも自分で気になった事は必ず書きとめておくこと。
	情報収集の見方	情報収集するためには、常在条件の基本的欲求に及ぼすということ。
	収集する情報やその考え方	基本的欲求の充足状態、常在条件、病理的状态についての情報について、自分の価値観で評価してはいけない。また、本人や家族が言ったことは、言ったとおりに書いておくこと。
情報解釈	情報の解釈	少ない情報の中から推論できる内容を幅広く書いていくということ。どんな小さな事でも気になったら書く。疑問は調べる。
	情報の解釈	心理的・身体的に今後どのように変化していくか、根拠ある推論することが情報解釈である。そのためしっかり収集すること。看護知識を身につけ、患者やその家族とコミュニケーションとすることは大切な事。
	情報の解釈	根拠のある推論をしていく。
	情報 (推測)	根拠のある推論をすることが1番重要。
	解釈	単一情報→単一解釈。複数情報→複数解釈。単一情報に加齢現象、ALSがあって、2つ合わさって筋力低下がでてくる。単一情報と単一情報で複数情報となる。
	情報を読みとる	基本的欲求に影響を及ぼす常在条件に関する情報を得た際、解釈をきちんと行い、状態を把握すること。また何でも記録していく。
	収集した情報に対する解釈	収集した情報1つ1つに看護師 (私) が根拠のある推論をつけること。それが解釈である。

情報サブカテゴリー	学んだこと・テーマ	テーマに関する説明
情報解釈の仕方	解釈（根拠ある推測をしていく）	Aさんやその周囲の人についての情報をもとに、今後Aさんはどうなっていくのか、またAさんの置かれている状況はどんな感じなのかがよくわかり、解釈とはこういうものだとはよくわかった。
	情報解釈の仕方	作られた情報に関して、推論等もいれながら、いろんな状況等を考えて解釈していくこと。
	患者の情報に対する解釈の仕方	情報から何を求めるかは、専門的知識を得ていなければならない。そして複数情報に対して、複数解釈をする。身体的ならびに知的能力の中でも病気からの病理的状态や臨床症状をちゃんと知ることが大切である。
	解釈は推論	情報解釈とは、根拠のある推論をしていくことで、情報を色々な方向からみて、考えられることを解釈すること。
	年齢、症状からこれからの状態の予測	72歳で加齢現象による筋力低下と、ALSの症状による筋力低下も加わり、本人はますます惨めな思いをすると予測される。
	複合解釈について	根拠のある推論をすることが情報解釈であって、複数情報は複合解釈で、看護では複合解釈しなければならない。
	複数情報からの複合解釈	情報は収集したら終了ではなく、それを生かすために、自信の知識を用いて解釈しなければ意味がない。複数の情報から複合された解釈が生まれることで、看護に役立てることができる。
	複数情報－複合解釈	筋力低下に影響する加齢現象（単一情報）、ALS（単一情報）の複数の情報によって推測し、複数解釈することが、看護には特に必要。
	単一情報－単一解釈、複数情報－複合解釈	Aさんの筋力低下は、加齢現象という単一情報による単一解釈と、ALSという単一情報による単一解釈ができる。これらいくつかの情報を一緒にしたものを複合解釈といい、これらを両面から考え、アセスメントしていくと、いくつかの情報解釈がでてくる。これを複合解釈といい、Aさんの場合、筋力低下に加え、ますます惨めな思いをするであろうと予測できる。

表2 学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明（常在条件カテゴリー）

常在条件サブカテゴリー	学んだこと・テーマ	テーマに関する説明
身体的・知的能力	身体的・知的能力の情報	知的能力や患者の情緒は、援助の方法に関係する。身体的症状は、病理的状态、臨床症状。
	身体的ならびに知的能力	人間の受け入れ方には、理性的、情緒的がある。QOLは個人さまごみである。
	身体的ならびに知的能力	自分が身体的ならびに知的能力に関する情報だと思ったら書く。迷ったら書いておく。
	身体的ならびに知的能力の情報解釈	Aさんは知的能力を維持できていることが自尊感情である。よってAさんのQOLは、自尊感情（人間としての尊厳）を維持できていることであって、知的能力を最後まで維持できるようにしていくことが、Aさんを尊重していくことにつながっていくことを私達は理解していなければならない。

常在条件サブカテゴリー	学んだこと・テーマ	テーマに関する説明
特記事項	特記事項について	特記事項はその人に合ったものを書くという事。そして何を書く事か適切か自分で判断して書くということ。
	日課・生活のリズム	AさんのQOL向上や、夫の介護疲れなどが把握できることが理解できた。
	特記事項、日課・生活のリズム	Aさんは自宅で生活していて、日課・生活のリズムがAさんのQOLを支えているから、特記事項が、日課・生活のリズムとなっている。
	なぜ日課・生活のリズムが特記事項か	Aさんは長年ALSを患っていて、身体の状態からしたらいつ呼吸困難、呼吸不全がきてもおかしくない。でも入院しても治療はない。夫といることが、AさんのQOLを高め、生活のリズムがQOLを支えるため、特記事項となっている。
個人情報	個人情報	Aさんに対する家族構成だけでなく、予測されることまで記入しなければならないこと。
	個人情報について	家族構成の書き方について学んだ。
	個人情報の解釈	看護師の能力と知恵で複合解釈していく。根拠のある推論をしていくこと。人間に対する理解と知恵を自分がいかに持っているかが大事。
気質・情動状態	気質・情動状態	気質・情動状態の情報から解釈すると、Aさんがどのような性格なのかがこんなにも細かくわかっていることに驚いた。Aさんの性格から考えられることが理解できた。
	気質・情動状態	神経質な面が落ち込みにつながる。自分の感情表出が素直にできるように支えることが最大の援助である。
	気質・情動状態について	良いか悪いかは自分で判断してはいけない。また、情報の中で評価もしてはならない。本人の話したままを書く。自分の印象を書いてもよいが、そのかわり記名することが必要。
社会的ないし文化的状態	社会的ないし文化的状態	情緒的支援・・・夫が気持ちを使って自分を支えてくれること。 道具的支援・・・夫が自分の体を使ってこの人を支え、支援しているやり方

表3 学んだこと Best 1 テーマとテーマに関する説明 (ALS・自尊感情・支援・倫理・記録・カテゴリー)

サブカテゴリー	学んだこと・テーマ	テーマに関する説明
ALS疾患	ALS	ALSには、広義のALSと狭義のALSがあって、特に狭義のALSは進行が早く、予後が悪いことがわかった。
	広義のALS	PBPとPLSとSPMAを全部含めたものが広義のALSである。
	ALSの症状について	ALSによって、身体がどのようにおかされ、どのような苦しみがあるか。
	ALSの初症状	初症状としては、上肢の一侧が筋力低下を起こす。その後は下肢が一侧が筋力低下を起こす。
	運動ニューロン疾患について	ALS（筋萎縮性側索硬化症）は、DLS、SSPの上位ニューロン障害、PBPの球麻痺＜SPMAの下位ニューロン障害の3つの症状が重なったもの。

サブカテゴリー	学んだこと・テーマ	テーマに関する説明
ALS 疾患	病理的状态、臨床症状	舌の萎縮、舌、口筋の繊維束性れん縮、頸部筋力低下、四肢筋力低下がALSの症状としてある。
	ALSという病気の恐ろしさ	舌の萎縮や筋力低下などが重い常態になる病気で、さらに治すことのできない病気だと分かり、恐ろしいと思ったし、そのような病気になってしまった人を支えていきたいと思った。
自尊感情	尊重	知的能力を最後まで維持できるようにし、人間としての尊厳を保てるように支えることが、Aさんを尊重することであり、本当の意味での尊重である。
	自尊感情	自尊感情とは、自分に対する価値づけであり、これを保つことがとても重要であるということ。
	自尊感情	自分に対する価値づけのことである。これを高めることによって、QOLにつながる。
	自尊感情	自分に対する価値づけである。知的能力が維持できることにより、自尊感情が維持できる。それでQOLにつながっている。
	自尊感情	自分に対する価値づけ。
(夫)の支援	道具的支援	夫が自分の体を使ってAさんを支える、といったような支援の仕方。
	道具的支援	夫が自分の体を使って、この人を支える支援のしかた。
	情緒的支援	夫が自分の気持ちを使って、この人を支える支援のしかた。
倫理・記録	守秘義務	看護師は、患者の個人情報絶対にもらさない。
	その人その人のQOL	知的能力を最後まで維持できることは、Aさんの自尊感情につながる。これがAさんのQOLである。
	QOLを尊重した考え	その人らしい生き方を支援して、できる限り心的に支えていくという「人間らしさ」を尊重した考え方に、多くのことを学んだと思いました。
	その人においての基本的欲求を考える	プリントの表I-1で、Aさんにとっては知的能力を維持することが重要であり、その人それぞれの欲求のあり方が具体的にわかった。
	看護は一人ではできない	家族が協力して看護をしていかなければならない状況がある。
	記入	どんな情報や患者の行動かをもらさずに記入する。
	評価は書かない	看護師が患者さんを見ての印象や自分の意志を書いてもいいが、患者さんを評価するような書き方をしない。
	思いこみ記述はだめ	常在条件の気質・情動常態の情報を記述するところへは、本人、夫が話したなら、それぞれの話したままのことを記述し、思いこみなどで記述してはいけない。ただし、看護師として気づいたことなどはいい。

(2) 学んだこと Best 1 テーマに対する学生の説明能力の評価

① 評価基準

各学生の学んだこと Best 1 で取り上げたテーマに対し、その学生はテーマについて学んだことをどう説明しているか。各学生の説明能力の評価を行った。

評価は、A・B・Cの3段階とした。

各評価の評価基準は次のとおりである。

A評価 ・学んだことテーマ（以下「テーマ」とする。）について本質をついて正確に述べられている。

- ・テーマの概念化が試みられている。
- ・テーマについて事例から抽象化ができています。
- ・事例理解が本質をついている。
- ・学生が自身の思考過程を経てまとめられた説明で表現している。
- ・授業で強調したことがベスト1に挙げられている。
- ・説明されている内容が、看護援助の本質につながっている。
- ・概念化につながる説明の仕方として、事柄の本質を多側面からとらえ、統合させて表現されている。

B評価 ・述べられていることは正しいが、説明が部分的、断片的で本質に迫っていない。

- ・道具的支援、情緒的支援のように二面性の支援のあり方を教育したにもかかわらず、その一面しかとらえられていない。
- ・ALS疾患など新しい知見にふれ、その知識を自分なりの理解にしているが、断片的で、対象理解や看護援助に結びついていない。

C評価 ・留意事項を根拠や論理性を示して教えたにもかかわらず、表層の留意事項程度の説明しかしてない。

- ・書いていることが間違っている。
- ・書いていることが評価者に通じない。理解できない。

② 評価の観点

学べたことのテーマの評価ではなく、学べたことを自分の思考・表現能力でいかに明かしているか、という観点に立って評価した。

③ 評価結果

学んだこと Best 1 テーマに対する説明の評価結果は、表4「学んだこと Best 1 のテーマに対する説明の評価」にまとめた。

表4 学んだことベスト1のテーマに対する説明の評価

情報カテゴリー	「学んだこと」テーマ	評価	常在条件カテゴリー	「学んだこと」テーマ	評価	
情報収集	情報の収集	A1	気質・情動状態	気質・情動状態	A3	
	情報の収集	B1		気質・情動状態		
	情報の収集	C3		気質・情動状態について		
	情報収集の見方		社会的ないし文化的状態	社会的ないし文化的状態	A1	
	収集する情報やその考え方		その他のカテゴリー	「学んだこと」テーマ	評価	
情報解釈	情報の解釈	A7	A L S 疾患	A L S	A1 B6	
	情報の解釈			広義の A L S		
	情報の解釈			A L S の症状について		
	情報（推測）			A L S の初症状		
	解釈			運動ニューロン疾患について		
	情報を読みとる			病理的状态、臨床症状		
	収集した情報に対する解釈			A L S という病気の恐ろしさ		
情報解釈の仕方	解釈（根拠ある推測をする）	A9	自尊感情	尊重	A4 B1	
	情報解釈の仕方			自尊感情		
	患者の情報に対する解釈の仕方			自尊感情		
	解釈は推論			自尊感情		
	年齢、症状からこれからの状態の予測		(夫) の支援	道具的支援	B3	
	複合解釈について			道具的支援		
	複数情報から複合解釈			情緒的支援		
	複数情報 — 複合解釈		倫理・記録	守秘義務	A4 B2 C2	
	単一情報 — 単一解釈			その人その人の Q O L		
				Q O L を尊重した考え		
情報カテゴリー	「学んだこと」テーマ	評価	倫理・記録	その人においての基本的欲求を考える	A4 B2 C2	
身体的・知的能力	身体的・知的能力の情報	A2		看護は一人ではできない		
	身体的・知的能力	B1		記入		
	身体的・知的能力	C1		評価は書かない		
	身体的・知的能力の情報解釈			思いこみ記述はだめ		
特記事項	特記事項について	A4				
	日課・生活のリズム					
	特記事項、日課・生活のリズム					
	なぜ日課・生活のリズムが特記事項か					

表4を概観すると次のことがいえる。

- i A評価者 36名 B評価者 14名 C評価者 9名
 - ii A評価者のみ、あるいはA評価者に多いテーマ
 - ・情報解釈 ・気質・情動状態
 - ・情報解釈の仕方 ・自尊感情
 - ・特記事項
 - iii B評価者の多いテーマ
 - ・ALS疾患
 - iv C評価者の多いテーマ
 - ・情報収集
- ④ 評定結果に関する考察

- i A評価者の看護理論における学びの習熟性

A評価者は36名であった。同問題の10点満点と9点を得点した者の合計が31名であった。さらに、A評価者と10点、9点を得点した者の間には相関が認められた。また、A評価者のみ、あるいは多かったテーマは、上に示した「情報解釈」「情報解釈の仕方」「特記事項」「気質・情動状態」「自尊感情」といったテーマであった。

情報解釈、情報解釈等の講義は、一般論で教えることは不可能に近く、事例の個別情報を例にとり、情報解釈の意義や方法さらに解釈の結果を教示することで、一般化させる教授法を専ら開発してきた。またそれは、教科書に書いてあることではなく、講義する教員が事例に則した独自の教材を作成し、それによって具体性をもたせて教示することが最も理解させ易いと考えている。

学生も事例に引き込まれて、生じている現象や事柄の論理を理解していく。それは、現象学の発想で、現象の意味論を教える方法でもある。

筆者が長年かけて独自に開発し、教示してきた方法とその成果に対して、学生が学びのBest 1に挙げることは、筆者の教育的価値観と学生の学びの価値観との一致性を証明するもので、教育的充実感をもたらすものである。

「特記事項」「気質・情動状態」は、事例で取り上げたA氏の気質・情動状態が、A氏固有の状況をもたらすもので、A氏の気質・情動状態がA氏の闘病意欲にどう影響するか、そして、A氏の日課、生活のリズムが、何故特記事項に固有の情報として取り上げられているか、授業に中で具体的に教授した。A氏の何気ない日常性の中に、看護師として着目していかなければならない重要な意味があり、それに依拠した看護援助の必要性をより強調して教授したのであるが、そのことをよく理解し、習熟させた学生が過半数いたことは、高く評価することができる。

一方、A評価者36名と同問題採点結果の10点、9点得点者との間に相関が認められるということは、何を意味するのであろうか。

その鍵は、問題の採点基準とA評価の評定基準にある。

同問題の採点基準は、次の3点であった。

- ・テーマとテーマについて学んだことの内容の一致性
- ・テーマについて述べられていることが、講義等の復習で深められているか。
- ・前問の学修と関連させて総合的に述べられているか。

A評価の評定基準は次の8点であった。

- ・説明がテーマの本質について、正確に述べられている。
- ・概念化につながる説明の仕方として、事象の本質を多側面からとらえ、統合させて表現できている。
- ・テーマについての事例の具体から抽象化が試みられている。
- ・事例理解が本質をついている。
- ・自身の思考過程を経てまとめた説明が表現できている。
- ・説明されている内容が、看護援助の本質につながっている。
- ・授業で強調したことがベスト1に挙げられている。

採点基準は、記述の仕方やテーマと説明の一貫性を問う基準である。

それに対し、A評価基準は、説明内容の質を問うものであり、内容の深さや多様性、多面性、さらに統合性を問うている。

過半数に及ぶ学生が学修の習熟性を示しているということは、採点基準で示したすぐれた記述で説明ができているということと、A評価基準で示した8点にも及ぶ理解能力、説明能力を修得しているということである。

今回の分析でそのことが証明された。学生の高い習熟度を見逃すことなく、さらに習熟させていく責任を看護教員は負っている。

ii B評価者の学びの偏りと学びの関連発展性

B評価者は14名であった。

14名がB評価となった背景は、採点基準で示したように、テーマと説明内容の一致性に欠け、説明が単純で、概念化の追求に欠けていた。

また、B評価基準で述べたように、述べていることは正しいが、説明が部分的、断片的、一面的で事象の本質や全体性をとらえていく能力に欠ける。

このような結果を統合すると、B評価者の学びには、偏りがあるのではないかと考えられる。多分に自分の関心のある事象や知識は吸収し、学修を深めることは可能であるが、それが偏在してしまうと人間の統合性、援助の多面性を追求しなければならぬ看護学の学びに遅れをとることになる。

関心や好奇心のあることに対して、その学びを深めることは重要であるが、それに加えて学びをより発展させていくためには、学んだことをインテグレートしていく能力が不可欠である。学びをインテグレートしていく能力の開発こそが、B評価者には必要な教育となる。

iii C評価者における未熟性

C評価者は9名であった。

C評価者は、説明内容が少なく、書いたことが何をいいたいのかわからず、理解するのが困難であった。また、書いていることに間違いもあり、講義したことが正しく理解されていないと考えられた。また、C評価基準でも述べたように、根拠や論理性を示して留意事項を教えたにもかかわらず、留意事項を述べる程度の説明しかできていないことが全体性、統合性を欠いていた。

以上からC評価者の未熟性は、先ず思考し、考えをまとめるに必要最低限の知識不足が原因と考えられる。

講義の中で知り、考え、表現する能力さらに講義で教えられた重要概念をつかみとり、それを学びの中心に備える能力、そういった高度の学修能力は、毎回の授業の中で修練して蓄積していかなければならない能力である。

そのような修練をする前の知識の獲得も精一杯の状態です。授業に参加していることは、多くの苦痛を伴っていただろう。

教員は、C評価者のような学生こそ、手厚い教育上の配慮をしなければならない。

教員にとっては、重くて難しい課題であるが、これが現状である故に更に真剣に取り組まなくてはならない。

3 学んだこと Best 1、Best 2、Best 3 のテーマ間の関連性

1) 学んだこと Best 1 テーマ別、Best 2、Best 3 テーマの作表

既述の「Ⅳ章 研究方法 2、データ分析 3) 学んだことベスト1を基軸にしたベスト2、ベスト3のテーマ分析」で示した分析方法を用いて作表した。

学んだこと Best 1 テーマは、情報カテゴリー、常在条件カテゴリー、ALS・自尊感情・支援・倫理と記録カテゴリーの3カテゴリーに分類できた。

62名の Best 1 テーマは、3カテゴリーの各カテゴリーに内包されるサブカテゴリーに位置づけた。サブカテゴリーに位置づけられたテーマを書いた学生が、ベスト2・ベスト3にどのようなテーマを挙げたかを一覧できる表を作成した。

その表名は、「学んだこと Best 1 テーマ別、Best 2、Best 3 テーマ」とした。

Best 1 テーマは、情報カテゴリー・常在条件カテゴリー・ALS等カテゴリーの3カテゴリーに分けたことから、当作表も3カテゴリー別の3表となった。(表5・表6・表7)

2) 結果

作表した結果が次の3表である。

表5 「学んだこと Best 1 テーマ別、Best 2、Best 3 テーマ (情報カテゴリー)」

表6 「学んだこと Best 1 テーマ別、Best 2、Best 3 テーマ (常在条件カテゴリー)」

表7 「学んだこと Best 1 テーマ別、Best 2、Best 3 テーマ (ALS・自尊感情・支援・倫理と記録カテゴリー)」

表5 学んだこと Best 1 テーマ別 Best 2、Best 3 テーマ (情報カテゴリー)

情報サブカテゴリー	Best 1 テーマ	Best 2 テーマ	Best 3 テーマ
情報収集	情報の収集	道具的支援	日課・生活のリズム
	情報の収集	日課・生活のリズム	常時存在する条件で基本的欲求を変えること
	情報の収集	情緒的支援	日課・生活のリズム
	情報収集でのみ方	追求していく	病気だけでなく
	収集する情報やその考え方	身体的ならびに知的能力について	特記事項が「日課・生活のリズム」である理由
情報解釈	情報の解釈	日課・生活のリズム	情報の収集
	情報の解釈	日課・生活のリズム	家族構成の図の見方
	情報の解釈	道具的支援	日課・生活のリズム
	情報(推測)	A氏のみじめな思い	常在条件
	解釈	道具的支援・情緒的支援	自尊感情

情報サブカテゴリー	Best 1 テーマ	Best 2 テーマ	Best 3 テーマ
情報解釈の仕方	情報を読みとる	解釈するにあたって	情報の収集
	収集した情報に対する解釈	情報を解釈するために、ALSの症状を知ること	Aさんの場合の特記事項は、日課・生活のリズムである
	解釈(根拠ある推測をしていく)	看護診断	QOLについて
	情報解釈の仕方	道具的支援について	ALSとaging
	患者の情報に対する解釈の仕方	特記事項(日課・生活のリズム)をみてのAさんのQOL	個人情報、家族構成表について
	解釈は推論	ALSの臨床症状について	QOLについて
	年齢、症状からこれからの状態の予測	ALS	闘病生活と経済的自立
	複合解釈について	ALSの病の受け入れ方	重要他者
	複数情報からの複合解釈	ALSについて	身体的ならびに知的能力
	複数情報—複合解釈	初発症状	データベースとなる常在条件に関する情報
	単一情報—単一解釈、複数情報—複合解釈	AさんのQOLの維持	Aさんの特記事項

表6 学んだこと Best 1 テーマ別 Best 2、Best 3 テーマ (常在条件カテゴリー)

常在条件サブカテゴリー	Best 1 テーマ	Best 2 テーマ	Best 3 テーマ
身体的・知的能力	身体的・知的能力の情報	情報解釈	QOLを高めることは
	身体的ならびに知的能力	気質・情動状態	個人情報
	身体的ならびに知的能力	個人情報	日課・生活のリズム
	身体的ならびに知的能力の情報解釈	複数情報・複合解釈	社会的・文化的状態の情報解釈
特記事項	特記事項について	情報の書き方について	解釈の仕方について
	日課・生活のリズム	道具的支援	日課・生活のリズム
	特記事項、日課・生活のリズム	情緒的支援	道具的支援
	なぜ日課・生活のリズムが特記事項か	気質・情動状態	身体的ならびに知的能力
個人情報	個人情報	社会ないし文化的状態	身体的ならびに知的能力
	個人情報について	気質・情動状態	身体的ならびに知的能力
	個人情報の解釈	気質・情動状態の解釈	身体的ならびに知的能力
気質・情動状態	気質・情動状態	個人情報について	身体的ならびに知的能力
	気質・情動状態	個人情報	社会的ないし文化的状態
	気質・情動状態について	身体的ならびに知的能力	複合解釈と単一解釈
社会的ないし文化的状態	社会的ないし文化的状態	ALS	身体的ならびに知的能力

表7 学んだこと Best 1 テーマ別 Best 2、Best 3 テーマ (ALS・自尊感情・支援・倫理・記録カテゴリー)

サブカテゴリー	Best 1 テーマ	Best 2 テーマ	Best 3 テーマ
ALS疾患	ALS	ALSの主症状	ALSと診断される1番のポイント
	広義のALS	ALSの治療	球症状について
	ALSの症状について	ALSの治療について	球症状について
	ALSの初症状	球症状	表Ⅶ-5 各国のALS訂正死亡率
	運動ニューロン疾患について	QOLの向上について	個人情報の家族構成について

表7 学んだこと Best 1 テーマ別 Best 2、Best 3 テーマ (ALS・自尊感情・支援・倫理・記録カテゴリー)

サブカテゴリー	Best 1 テーマ	Best 2 テーマ	Best 3 テーマ
自尊感情	病理の状態、臨床症状	自尊心の維持	筋力低下
	ALSという病気の恐ろしさ	広義と狭義のALS	常在条件を書く時の注意
	尊重	情緒的・道具的支援	重要他者
	自尊感情	道具的支援	理性的理解
	自尊感情	情緒的支援	道具的支援
(夫)の支援	自尊感情	道具的支援	身体的症状
	自尊感情	情緒的支援	道具的支援
	道具的支援	身体的ならびに知的能力	個人情報解釈
倫理・記録	道具的支援	身体的ならびに知的能力	個人情報解釈
	道具的支援	日課・生活のリズム	情報の収集
	情緒的支援	道具的支援	自尊感情
	守秘義務	気質・情動状態の書く欄	なぜ医学的知識を知るか
	その人その人のQOL	相互依存について	情緒的支援について
	QOLを尊重した考え	情報の解釈	看護専門知識の必要性
	その人における基本的欲求を考える	情報の解釈の流れ	疾病に関する情報の分析
	看護は一人ではできない	患者の気質が治療に及ぼす影響	身体的ならびに知的能力
倫理・記録	記入	道具的支援	患者と家族
	評価は書かない	特記事項について	患者さんの家族関係を知る
	思いこみ記述はだめ	ALS	闘病生活と経済的自立

3) 考察

Best 1 テーマから Best 2、Best 3 へとテーマが変化している様相が、3 カテゴリー毎に示された。また、同一カテゴリー、サブカテゴリー内においてもテーマの様相に特徴が見いだされた。

主な特色は次のとおりである。

(1) Best 1、Best 2、Best 3 テーマの類以性、共通性

Best 2、Best 3 テーマを概観すると、Best 1 テーマと類似または同一のテーマといえる。また、Best 1 で行ったサブカテゴリー化が、Best 2、Best 3 でも同様にできた。

主たる学びの主概念の共通性がみえた。その代表としての Best 1 テーマであるといえる。

(2) Best 1 情報カテゴリーを挙げた学生の学修テーマの多様性

ベスト1に情報カテゴリーを挙げた学生は、ベスト2に20／21、ベスト3に19／21で、常在条件カテゴリー、ALS等カテゴリーの他のカテゴリーテーマを挙げた。

情報カテゴリーテーマをBest 1に取り上げた者は、学修テーマの範囲が広い事を示すものである。

(3) Best 1 常在条件カテゴリーを挙げた学生の常在条件へのこだわり

ベスト1を常在条件カテゴリーに取り上げた者が、ベスト2で12／15、Best 3で13／15、同じ常在条件カテゴリーのテーマを取り上げている。

設問が常在条件の情報範囲の学修に集中したことが、拘りに影響したと考えられる。

(4) ALS疾患の学びの集中性

ベスト1にALS疾患を取り上げた学生は、ベスト2で6/7、ベスト3でも5/7と、ALS疾患の学修に集中している。さらにALS疾患の概念、主症状、球症状や治療など、ALS疾患に関する医学的知識のある部分を取り上げている。

本格的な専門知識の学修で好奇心もあり、難解でもあっただけに、それがベスト1、2、3となっている様相が伺える。

基本的な知識として正確、確実に理解することを願うと同時に、それを患者看護にどう活用していくか、それへの発展を強く願う。

(5) 自尊感情・夫の道具的、情緒的支援の3テーマ関係

ベスト1に自尊感情・夫の道具的、情緒的支援を取り上げた8名は、ベスト2、3においてもほぼ同じテーマを取り上げている。このことは、患者本人が自尊感情を保ちつつ、日課・生活のリズムの中で、夫の道具的、情緒的支援を受けて日常を過ごすことが、QOLにつながることを常在条件の情報解釈で強調したこと、道具的、情緒的支援という概念が耳新しかったことが、3テーマの合体につながっていると考えられる。

このように分析すると、学生は患者やそれを支える夫の見方を、人間的、役割の、倫理的側面をある文脈をもって理解している様相が伺えた。

そして、そのように教育することが、重要であることも検証された。

(6) 倫理・記録サブカテゴリーの多様性

ベスト1サブカテゴリーで倫理・記録のカテゴリーを挙げた。このカテゴリーに属する学生8名は、ベスト2・3のテーマも多様であり、このサブカテゴリーにおける学びのテーマのつけ方にも独自性が伺える。

ALSグループが1つのことに集中しているとすれば、このグループは関心が拡散しているグループといえる。

4) 全テーマからみえてきた学びの文脈

前項2)の考察を通して、本学看護学科1年生の看護理論の学びの文脈を見出すことができた。

学生の学びを総括すると次のように結論づけられる。

「夫の道具的・情緒的支援をうけて、自尊感情を維持しつつ、日常の日課を過ごすALS患者の理解は、ALS疾患の正確な理解に基づき、その上で基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報収集と情報解釈のもとに、患者のQOLを尊重した援助をする。」

筆者は、学んだことベスト1・2・3を記述させる教育的意図で、次のことを考えていた。(VI章 結果及び考察 1-1) 参照)

「ALSのAさん常時存在する条件(年齢など個人情報、気質情動状態、社会的ないし文化的状態、身体的ならびに知的能力)の情報収集を行い、収集した情報を解釈して、Aさんの14の基本的欲求の充足を判断していくことこそ、看護実践である」

全テーマからみえてきた学びの文脈は、当初の教育の意図を確実に達成し得たことを証明してくれた。教育の意図に応じて学修を成した看護学科1年生に称賛を送る。

VII 結 語

学んだことベスト1・2・3のテーマとテーマに関する説明を集積、分析することで、何が明

確になるのか。不確実な思いがあったが、分析、考察するなかで、看護学科1年生の成し得ていること、未熟性の実態が明確になった。さらにこのことは、次の教育に即時に活かせる。本学看護学科第1回の実能力を把握し、それに即応した教育が展開できる。充実感と次なる教育への意欲が生じる研究であった。

主な参考文献

1. V.Henderson「Basic Principles of Nursing Care」ICN 1997
2. Sr.C.Ray「The Ray Adaptation Model」2nd eds Appletons 1999
3. D.Orem「Nursing ; concept of Practice」Moslxy 1996
4. 金子道子編著「看護論と看護過程の展開」照林社 2005
5. ウヴェ・フリック「質的研究入門」〈人間科学〉のための方法論 春秋社 2003
6. ジャクリーン・小島訳「看護モデルの理解分析と評価」医学書院 1995
7. 市川伸一「思考〈認知心理学4〉」東京大学出版会 1995
8. 南裕子監訳「行動科学と看護理論」医学書院 1990
9. アンマリーナー「看護理論家とその業績」医学書院 1995
10. アーサー・ユームズ「認知心理学 上・下」ブレーン出版 1991
11. 日本看護系大学協議会編「看護学教育」日本看護協会出版会 2003
12. ベナー「看護ケアの臨床知」医学書院 2005

資料3 試験問題で取り上げた事例の概要

患者 A氏 72歳の女性

病名 筋萎縮性側索硬化症（ALSと略記）。2001年7月、咽頭部のつまり感出現。同年12月、B総合病院内科を受診。2002年11月、神経内科を紹介され、ALSの疑いで治療開始。2003年7月、ろれつ障害、嚥下困難出現、エンシェア・リキット開始となる。2005年5月呼吸困難出現。ストローで吸うことも困難となり、流涎多出。2006年4月言葉は聞き取れるが、発語できず、筆談となる。「ALSのテレビを見たが、同じ病気かと心配です。」の質問に、主治医から「Aさんは、球麻痺で、手足も動くし、ALSではありません。」といわれ、安堵した様子。現在の症状は、舌の萎縮・舌及び口筋の繊維束性攣縮・頸部筋力低下・四肢筋力低下がみられる。治療方針は、対症療法と、出来る事を可能な限り持続し、QOLをはかること。

資料1 完全な解答

18年度1年生前期試験 看護理論Ⅰ レポート課題 担当 金子 道子
学籍番号 氏名

Ⅳ 基本的欲求の充足について説明しなさい。(25)

1 基本的欲求に影響を与える事項を2つ挙げ、各事項の具体的要素を書きなさい。(6)

① 事項：

具体的要素：

② 事項：

具体的要素：

2 基本的充足に関して、専門的に判断する（診断）するのは誰ですか。(3)

3 基本的充足に関して、情報が必要です。何に関する情報が必要か、3項目挙げなさい。(9)

4 上記、1、2、3に関して、ヘンダーソンは。「看護の基本となるもの」の中で、根拠となる考え方を表で示しています。その表は、本の何ページにある表か、答えなさい。(3)

表名：

掲載ページ：

5 「看護論と看護過程の展開」におけるP44の「筋萎縮性側索硬化症患者の看護」のAさんの事例について答えてください。(14)

1) Aさんの基本的欲求の充足に関して判断するために、必要な情報を収集しています。それらの情報は、どこにまとめられていますか。まとめた表名、全部を答えてください。(2)

2) 基本的欲求の充足の判断に、情報を活用するために、必ずしておくことがあります。授業で教えたことをヒントに答えてください。(2)

3) Aさんの常時存在する条件に関する情報は、P45、表Ⅰ-1「基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件に関する情報」にまとめられています。さらに、それらの情報解釈は、プリント資料で講義しました。表と資料による解釈から、あなたが学んだことBest3を書いてください。(10)

・Best 1

・学んだことのタイトル「 」

・学んだことの内容：

・Best 2

・学んだことのタイトル「 」

・学んだことの内容：

- ・ Best 3

- ・ 学んだことのタイトル「 」

- ・ 学んだことの内容：

V 授業全体の感想を書いてください。ただしこれは採点の対象にはせず、これからの授業の参考にしたいと考えています。良かったこと、嬉しかったこと、悪かったこと、困ったこと、不安や不満、工夫してもらいたいことなど、何でも自由に書いてください。